



The United Nations
University



ゼロエミッションシンポジウム2007

「地球温暖化対策 - 展望と世界の先進事例」

日時 2007年11月28日(水) 9:30 - 17:30

場所 UNハウス ウ・タント国際会議場

東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

主催： 国際連合大学，国際連合大学ゼロエミッションフォーラム

共催： 日本学術振興会ゼロエミッション第168委員会

後援： 駐日英国大使館、経済産業省、環境省、日本放送協会（NHK）、日本経済新聞社、日経BP社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社（順不同 申請中）

対象： 企業経営者、環境部門担当、経営企画・設計・生産部門、地方自治体、環境NGO・NPO、研究機関、教育関係の方々

規模： 約300名

参加費： 無料（主催組織の非会員の懇親会参加費：有料）

開催趣旨

21世紀は環境の世紀と言われ、2005年2月に京都議定書が発効され、地球温暖化問題への国際的取組が重要な一歩を踏み出しました。

このような中、国際連合大学ゼロエミッションフォーラムでは、

「気候変動とゼロエミッション」(2005年京都議定書発効記念講演会)

「ポスト京都議定書」「サステナビリティを考える」(2006年春、秋)

「地球温暖化防止と低炭素社会 - IPCC4次報告と不都合な真実」(2007年春)

と地球温暖化問題を主テーマに取り上げたシンポジウムを開催してきました。

しかしながら、21世紀に入ってすでに7年、地球温暖化は科学者の予測通り進行しつつあります。また、世界各地では異常気象が頻発しています。強大なハリケーンや台風、集中豪雨による洪水、地滑り、土壌浸食、砂漠化の進行、水資源問題、旱魃による農作物被害、熱波、熱帯性の疾病地域拡大等々、世界的に深刻な被害を与えています。

本シンポジウムでは特別講演として、

グレアム・フライ駐日英国大使 より、昨年英国のニコラス・スターン博士が取りまとめたスターン・レビュー（気候変動の経済学）と英国の気候変動対策について報告頂き、厳しさを増す温暖化とその影響の正しい認識と、地球温暖化防止活動の世界の先進事例を学ぶ場とします。

皆様の積極的な参加を期待しております。

（日英同時通訳）

ゼロエミッションシンポジウム2007 プログラム
地球温暖化対策 - 展望と世界の先進事例

09:30 開会の辞 藤村 宏幸 (国際連合大学ZEF 会長)

09:40 歓迎の辞 Konrad Osterwalder (コンラッド・オスターヴァルダー) 国際連合大学 学長

地球温暖化対策 - 特別講演

10:00 「スターン・レビューと英国の気候変動政策」

Graham Fry (グレアム・フライ) 駐日英国大使

地球温暖化対策 - 展望

10:45 「低炭素社会に向けたパラダイムシフトと日本の環境戦略」

鈴木 基之 (国連大学 ZEF 学界 NW 代表、放送大学教授)

11:30 「日本の温暖化対策戦略 - 短期悲観、長期楽観」

三橋 規宏 (国連大学 ZEF 自治体 NW 代表、千葉商科大学政策情報科教授)

12:15-13:30 昼休み

地球温暖化対策 世界の先進事例

13:30 「スウェーデンの環境政策とストックホルムのバイオガス戦略」

Lars Rahm (ラーシュ・ラーム)

Planning Engineer & Company Specialist Biogas, Stockholm Water Co.

14:15 「温暖化対策 - 水素社会に向けたBMWの取組み」

山根 健 (ビー・エム・ダブリュー株式会社 エンジニアリング・ディビジョン ゼネラルマネージャー)

15:00 「温暖化対策 - トヨタのハイブリッド車への取組み」

大野 栄嗣 (トヨタ自動車株式会社 CSR・環境部 担当部長)

15:45-16:00 休憩

16:00 「温暖化対策 - USCAP の動きとジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の活動」

渡辺 教之 (ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ワールドワイド EHS アジアパシフィック地域

環境対策担当シニアマネジャー

16:45 「温暖化対策 - 家庭用燃料電池普及による家庭のCO₂削減対策」

波東 雄治 (松下電器産業株式会社 燃料電池化プロジェクト プロジェクトリーダー)

17:30 終了

17:30-19:00 懇親会 (於: 国連大学2階レセプションホール)

(都合により、プログラム内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。)